



聖書は、信仰と、より大きな信仰について語っています。イエスの言葉を引用すると、「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山に向かって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなた方にできない事は何もないであろう」(「マタイの福音書」17章20節)と、言われています。この信仰は、教会の信仰のために排他的に取っておかれたものではありませんが、通常の範囲の信仰ではありません。興味深いことに、ときおり予期せぬ場所で、絶対的で無条件の信仰が、急成長するのを見ることができます。幼い少年の揺るぎない信仰、バガヴァンのヴィブーティに対する新たな愛を物語る、下記のストーリーをお読みください。これは月刊誌『サナータナサーラティ』から抜粋された、ハリ・プラサンナ氏によって書かれた記事です。

ヴィブーティは効く！

それは夏のことでした。何人かのサイの帰依者たちがセヴァ（奉仕）のために、ハンセン病療養所に集まっていました。バジャンが始まりました。サイ大学の学生たちもそこに集まっていました。バジャンの後、患者たちに果物が配られました。

療養所で患者たちを目にするのは実に悲しいことでした。一体どんなカルマの法則が、このようなひどい病気を人々にもたらすのだろうと思いました。そんなことを考えていると、奉仕グループのリーダーである年配の紳士がやって来て、おっしゃいました。

「あなた方はスワミの学生なのだから、行って彼らと話をしませんか？」

私は療養所の中に入る勇気がありませんでした。周りを見回すと、他の友人たちでさえためらっていました。

「心配いりません。中には入りませんから。ちよつとの間、話をするだけですよ」と年長者たちがおっしゃったので、私たちは提案を受け入れました。

一人の若い少年が近づいてきました。年長の紳士はその少年に言いました。

「見てごらん、彼らはババ様の学生さんたちなのだよ」

少年の目は、賞賛の念にあふれて輝きました。私たち学生はちよつと身を引きました。すると突然、その少年は言いました。

「怖がらなくても大丈夫です。僕は皆さんに触れませんから」

この言葉は、私たちの心の琴線に触れました。それから、少年はマラーティ一語（マハーラーシュトラ州の人々が話す言語）で話し始めました。少年は12歳で、彼の病気は初期段階だとのことでした。その少年は夢の中でババ様を見たことがあり、ババ様がどのようにしてプラシャーンティ マンディールや大学の建物へダルシャンを授けに来られるかを描写しました。少年は一度もババ様に会ったことはなかったのです！ ババ様はよく自分の夢に出て来られるのだと少年は言いました。

「皆さんはスワミにととても近い人たちです。どうか僕が癒されるように祈ってください」

この言葉は、私たちの目に涙を浮かばせました。私たちは言いました。

「もちろん、僕たちは君のためにお祈りします」

それから突然、年長の帰依者が言いました。

「だれかスワミにもらったヴィブーティを持っている人がいれば、この少年にあげてはどうですか？」

休暇で故郷の家に帰るとき、スワミは私たち学生に、ヴィブーティのプラサードをくださいます。何人かは、ポケットにヴィブーティの小袋をしのばせていました。すぐさま、私たちはその少年にヴィブーティの小袋を幾つか分けてあげました。

休暇の後、プラシャーンティ ニラヤムに帰ると再び勉強が始まりました。

ある日、私はサイセンターのリーダーから一通の手紙を受け取りました。そこには、あのハンセン病療養所で出会った少年が薬を拒み、彼に渡したヴィブーティだけを塗って、スワミにお祈りしていたことが書かれていました。

病院当局の関係者たちはそのことを少々危惧しており、病院側が少年に施している治療に、サイの帰依者たちが介入することを嫌がっていた、とのことでした。

二週間後、医師たちがその少年を検査しました。ハンセン病の痕跡は、どこにもありませんでした。その少年は癒されていたのです！



出典：<http://www.theprasanthereporter.org/2013/06/vibhuti-does-it/>